

# 窓

## 「やがて 悲しきは……」 スポーツ？

鈴木文明（研究生）

中 島 豊 雄

世の中には信じられないことや、わからないことが実に多くあります。最近のスポーツ事情をながめてみても、「ウッソー？」とか「エー？」とかいうような、音便を必要以上に強調した女子学生ことばによる表現がピッタリする出来事が次々と起っているような気がします。

「体育行事にも『日の丸 君が代』、県高体連が完全実施、反対の学校は競技参加認めず」。これは4月25日の沖縄タイムズで報じられた記事の見出しです。ここでいう体育行事とは沖縄県高校総体のことですが、その開会式において「君が代」が流れる中、「日の丸」を掲揚するというのです。また、この決定に至るまでの経緯として、沖縄県高体連に対する沖縄県教育庁、九州高体連の圧力があつたことも記載されています。

文部省が全国の都道府県と政令指定都市の教育委員会に対し、「学校行事には日の丸を揚げ、君が代を斉唱せよ」と通達したのは1985年の9月でした。その年度の卒業式において、全国のほとんどの学校で日の丸が掲揚され、君が代が斉唱されましたが、沖縄の小・中学校ではその6%が日の丸を揚げたにとどまり、君が代に至っては全く歌われませんでした（沖縄の子供達の多くは、その歌詞を知らないそうですが）。そこには、「日の丸・君が代」に対するヤマトウンチューとは大きく異なった沖縄の人々の「想い」があるように思われます。

しかしながら、県教育庁（≡文部省）とか九州高体連といったヤマトウンチューの圧力によって、県高校総体では「君が代」が歌われ、「日の丸」が掲揚されます。このことは、天皇の出席が予定されている来年の海邦国体の開催とおそらく無縁ではなく、天皇を迎え入れるために、戦争体験を背景とした、沖縄の人々の「日の丸・君が代」に対する特別な“想い”までも、スポーツを利用し

て“本土なみ”にしてしまおうとする意図がうかがえます。スポーツと政治の問題は、難問であり簡単に論ずることはできませんが、しかし掲揚と斉唱に賛同できない学校の参加が認められないというペナルティーまでついてしまうと、「ウッソー？」と思わず叫んでしまいそうです。

次に、「エー？」と思わせることをひとつだけあげてみます。

瀬古選手は先ごろのロンドンマラソンで優勝し、賞金と出場料を合計して約900万円の大金を獲得しました。そしてレース後、彼は「賞金は目的ではない」、さらに「このお金は恵まれない人たちに寄付したい」と語っていました。なるほど立派な発言だとは思いますが、その900万円はすぐに彼の自由になるのでしょうか。

日本陸連の「競技者基金」の運用規定に従えば、900万円のうち10%は手数料として陸連のものとなります。そうすると残りは810万円ですが、その中から100万円以内の範囲で「強化費」が瀬古選手の所属するエスビー食品に支払われ、さらに残りの700万円余は彼の競技者基金口座に入れられ、陸連が管理し、引退後にやっと彼に渡されます。つまり、彼の手元には今のところ何もないのです。賞金の獲得の是非を中心としたアマチュアリズムの問題は、まさに彼ら自身についての問題だといえると思うのですが、寄付云々といった発言から、彼ら当事者は一体何を考えているのだろうかと思ってしまう。

「ウッソー？」、「エー？」と感じてしまうことをほんの少しあげたに過ぎませんが、まだまだいくつもあります。フェアプレイとかスポーツマンシップという聖なる神話とともに発展してきたスポーツに、今後政治的、経済的価値が付与され、かつ、それに利用される度合はますます強化されていくことは必至です。その時流に乗り遅れないためには、現在ほとんど手がつけられていない分野であるスポーツの政治的、経済的側面からの研究がすすみ、それらの諸問題の解決への方向づけをしなければなりません。さもなければ、スポーツは相も変わらず何者かに蹂躪され続け、混迷を深めることになるでしょう。「やがて悲しきは……」。

（体育科学部）